

タワーズワトソン・インベストメント・サービス株式会社
大海 太郎

第2回「なぜ、オルタナティブ投資を行うのか」

「なぜ、オルタナティブ投資を行うのか」

出版企業年金基金は、資産のうち約3割をオルタナティブに投資している。10年前までは、オルタナティブへの投資はゼロであった。なぜ、この10年間でオルタナティブへの投資をここまで拡大したのであるか。

そもそもオルタナティブ投資とは何だろうか。オルタナティブとは英語で「代替」を意味するが、伝統的な株式と債券以外の資産への投資（例：不動産、保険など）、あるいは伝統的な資産に対してこれまでとは異なる投資方法（空売り等）で投資することである。

このようなオルタナティブ投資を拡大してきた理由は、端的に言えば伝統的な株式と債券への投資だけでは安定的に必要な運用利回りを達成することが難しくなってきたためである。現在、債券の利回りは国内ではゼロか場合によってはマイナスとなっており、ほとんど収益が期待できない。海外の債券はもう少し利回りが高いが、為替リスクを回避するために為替ヘッジをかけると実質的に国内債券と同等程度となってしまうのが現状である。株式は中長期的には高い収益が期待できるが、2018年10月に2週間で10%程度下落したことからわかるように短期的に大きく下落することもあり、リスクが高い。結果として、オルタナティブに活路を見出さざるを得ないのである。

それでは、オルタナティブへ投資しておけば運用は磐石なのだろうか。残念ながら、オルタナティブ投資には固有のリスクや難しさがあり、留意する必要がある。具体的には投資内容が多岐で複雑、情報開示が限定的、リスクの所在がわかりにくい、運用者によりパフォーマンスに大きな違いが生じ得る、さらには一般的に報酬が高いといったことである。したがって、投資の際にはこれらの留意点を踏まえておくことが必須である。